令和３年度学校魅力化フォーラム

施設分離型、５・４制義務教育学校で地域素材を活用し児童生徒の自己肯定感を高めた取組

750M

流沙川学舎（1～5年生122人）

王舎城学舎（6～9年生110人）

鳥取市教育委員会　教育総務課校区審議室

主幹兼指導主事　竹田　潤

鳥取市紹介

麒麟獅子

らっきょうの花

松葉がに

鳥取砂丘

二十世紀梨

R1.6.1現在	鳥取市	鳥取県
人口	187,455人	556,687人
面積	765㎢	3,597㎢
特産品	らっきょう 松葉ガニ	二十世紀梨等

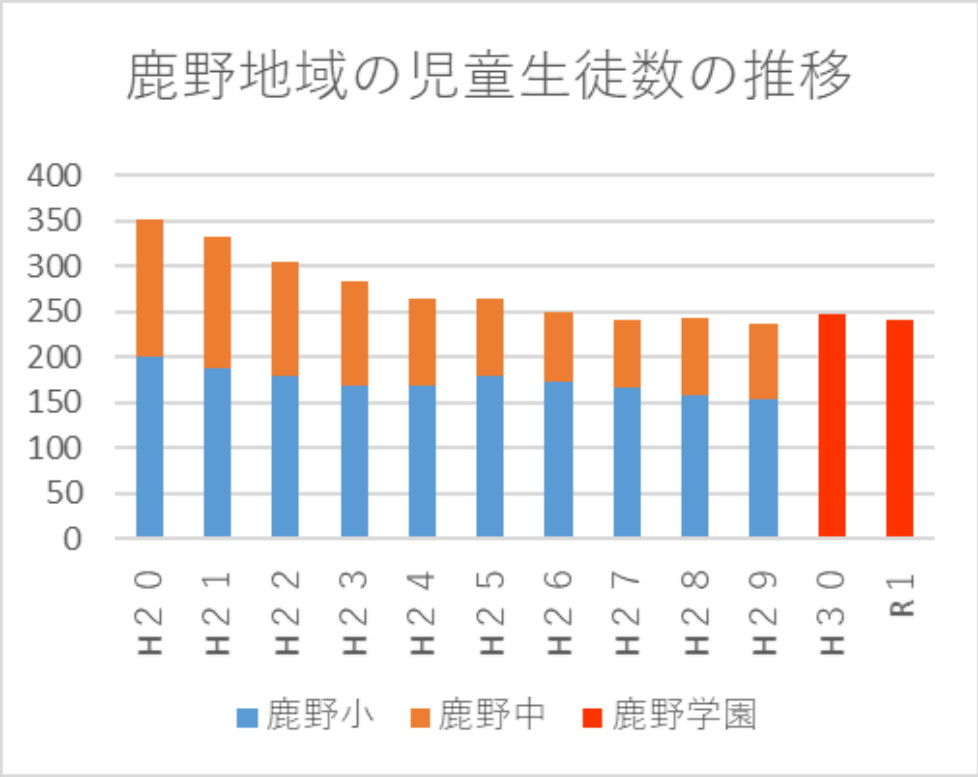
鳥取市紹介

小学校	３９校
中学校	１３校
義務教育学校	４校
児童数合計	約９３００人
生徒数合計	約４４００人

鹿野地域の教育を考える会での議論

○平成２５年１月 第１１期鳥取市校区審議会より
鹿野中学校（緊急度Ａ）小規模化による課題が懸念される（３学級生徒数９６人）

○平成２６年５月　　「鹿野地域の教育を考える会」　設立
小規模化による課題を解決するために
鹿野地域に中学校を残し、
「小中一貫校（施設分離型）」を設置する



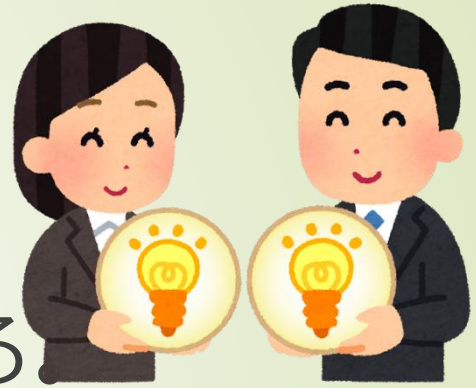
鹿野地域小中一貫校推進委員会での議論

・義務教育学校の選択肢は魅力的。（独自教科の設定、指導内容の入れ替えなど柔軟な教育課程を編成できる。学年の区切りを柔軟にできる。）
・分離型のデメリットは残る。
・中学校としては何も変わらないのでは？

学舎が離れていることを逆に魅力にできないだろうか？

鹿野地域小中一貫校推進委員会での議論

あえて段差を！



柱１　６・３制　➡５・４制へ

★中学校の小規模化の課題を解消する。

★早期にリーダー性を育て、後期課程を充実する

★児童生徒の心と体の発達の早期化に対応する。

★学力の向上が期待できる。

教科担任制、小中乗り入れ授業、

指導内容の入れ替え・移行、生徒指導。

柱２　地域素材を活用した特別の教科を設定

クリアしていく課題

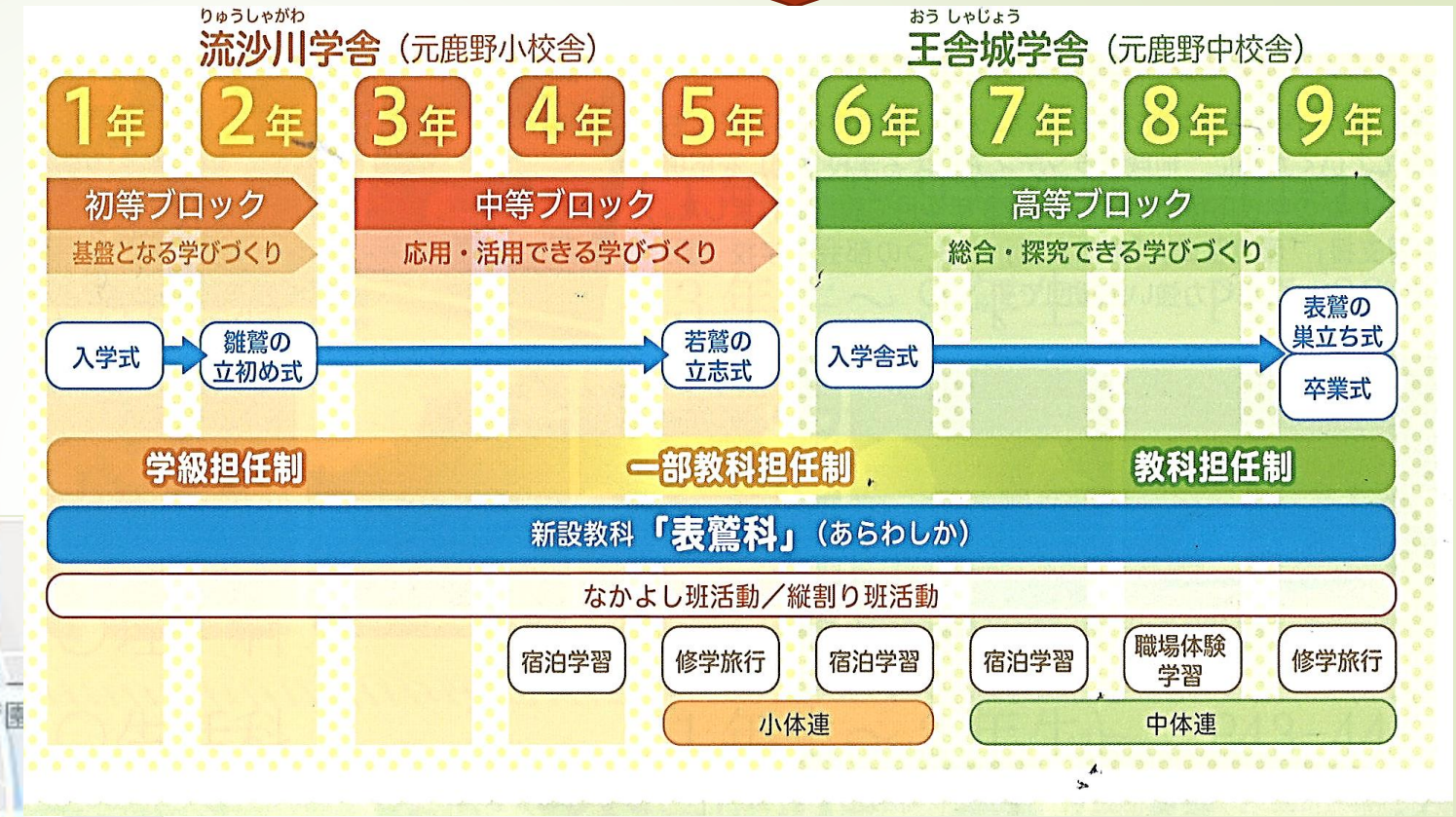
部活動とスポ少、通学方法、修学旅行等の行事、

教職員の負担（学舎間の移動）、持続可能な仕組みづくり

平成３０年　開校。でも分離型って・・・

入学舎式

・義務教育学校とする
・初等、中等ブロック
　　→元小学校校舎
　高等ブロック
　　→元中学校校舎
・新設の教科を導入

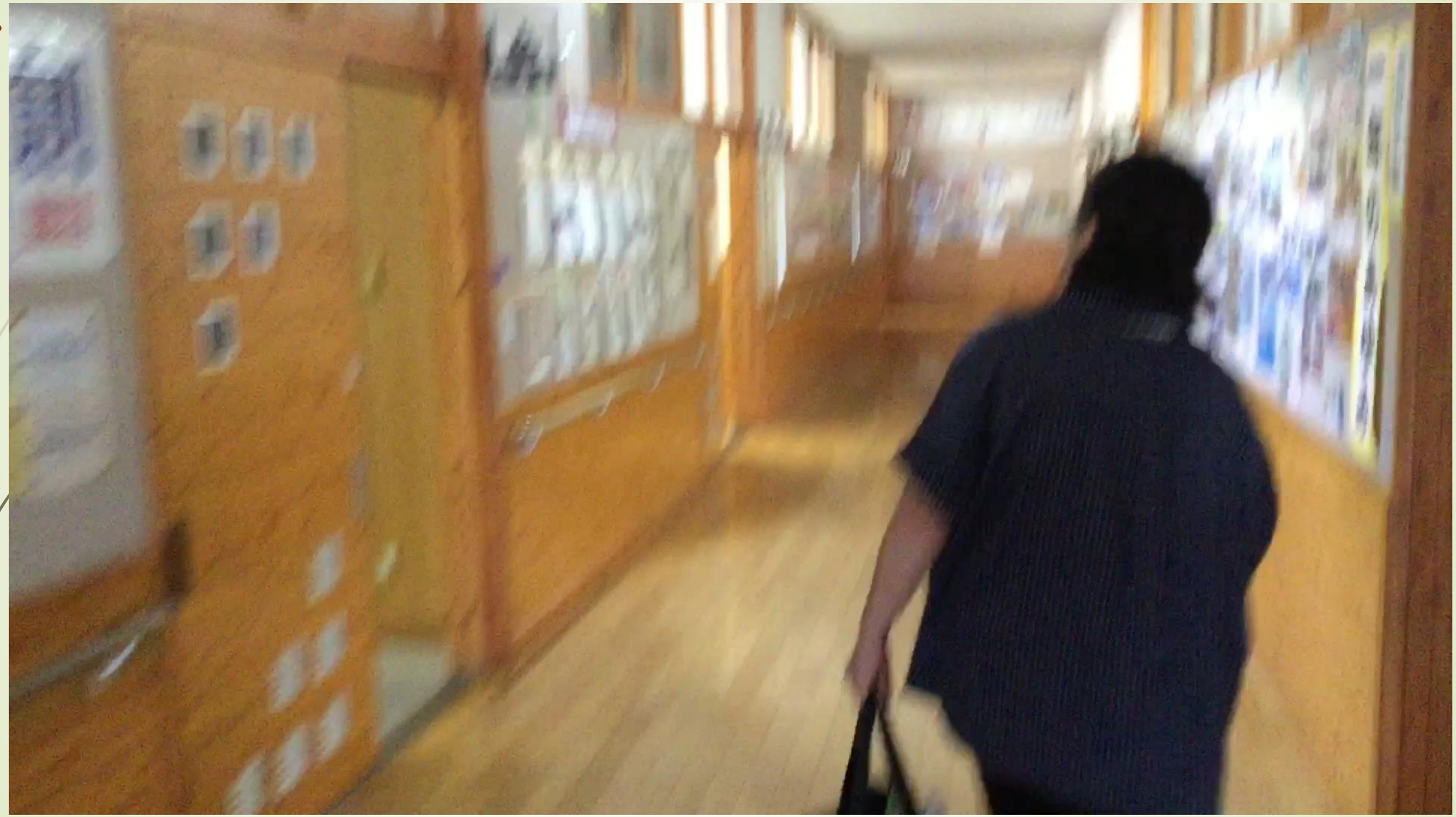


流沙川学舎に入学
↓
王舎城学舎で卒業
　　学舎間の距離は７５０ｍ

学舎間の移動を仮想体験していただきましょう

高等ブロック（王舎城学舎）を出発して中等ブロックの授業へ

中等ブロックの校舎（流沙川学舎）に到着です



柱１　６・３制　➡５・４制へ移行

児童・生徒編

分離型５・４制　あえて段差を残した効果は・・・

７～９年生

・６年生が同じ校舎に在学していることの効果

６年生

・一足早く中学のシステムと出会う
（発達の早期化にもマッチ・不登校への早期対応も）

５年生

・小学校側の最高学年としての自覚や成長

９年間の間にブロックの修了や学舎の移動があり、環境の変化やリセットを意図的に入れたことが奏功。
全体での行事ではいつも一緒でない分、逆に特別感。

柱１　６・３制　➡５・４制へ移行

教職員編

分離型５・４制　あえて段差を残した効果は・・・

・６年生
教科担任制と後期課程教員と６年担任によるＴＴ指導。
⇒後期課程教員のより専門的な知識を生かした授業、また６年担任によるよりきめ細かい指導双方が可能。

・初等・中等ブロック
５年生を最上級生、２年生を初等ブロック最上級生として育てる意識。

・学舎の距離感　いつも一緒ではない。しかし必要なときはテレビ会議システムが常につながっている。
それぞれの雰囲気を大切にした職員集団。

→９年間を通して育てる。しかし各ブロックの個性は残す。

柱２　地域素材を活用した特別の教科を設定

21 世紀を力強く生き抜くために

学びを支える力を養う　鹿野学園独自の（すごい）教科！　表鷲科（あらわしか）

めざす子ども像

- ふるさと鹿野を愛する子
- 「確かな学力」を持つ子

表鷲科のねらい

様々な表現・体験活動や鹿野地域に関わる伝統や文化を学ぶことを通して、
鹿野地域を愛する子どもを育てるとともに、未来を生きぬくための学びを支える力を養う。

表鷲科で育てる力（学びを支える力）

表現する力
相手に分かりやすく、
伝えることができる。

つながる力
友達や地域の方に進んでかかわり、
よりよい関係をつくることができる。

やりぬく力
困難な課題に対してねばり強く
最後まで取り組むことができる。

ブロック別の観点のねらい

初等（1,2年）

表現する力》
- 時、状況、場を考えて伝えたいことを進んで表現することができる。

つながる力》
- 体験を通してかかわることの楽しさを感じたり、意欲的にかかわることができる。

やりぬく力》
- あきらめないで自分が決めためあてや問題解決に向けて取り組むことができる。

中等（3,4,5年）

表現する力》
- 理由や根拠を明確にしながら伝えたいことを表現することができる。

つながる力》
- 相手の思いを受け止め、折り合いをつけながらかかわることができる。

やりぬく力》
- 解決方法を工夫しながら、自分が決めためあてや課題解決に向けて取り組むことができる。

高等（6,7,8,9年）

表現する力》
- 表現方法を工夫しながら伝えたいことを適切に表現することができる。

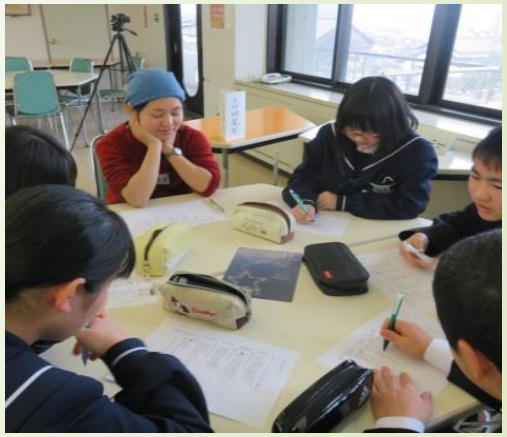
つながる力》
- 自他を肯定的にとらえながら、協働することができる。

やりぬく力》
- 目標達成のための見通しをもち、段取りをつけながら取り組むことができる。

活かす　他教科　意欲の高まり

主体的な学び・対話的な学びを通して深い学びを実現する

表現ワークショップ



「省察」の時間

柱２　地域素材を活用した特別の教科を設定

表鷲科（表現ワークショップ）

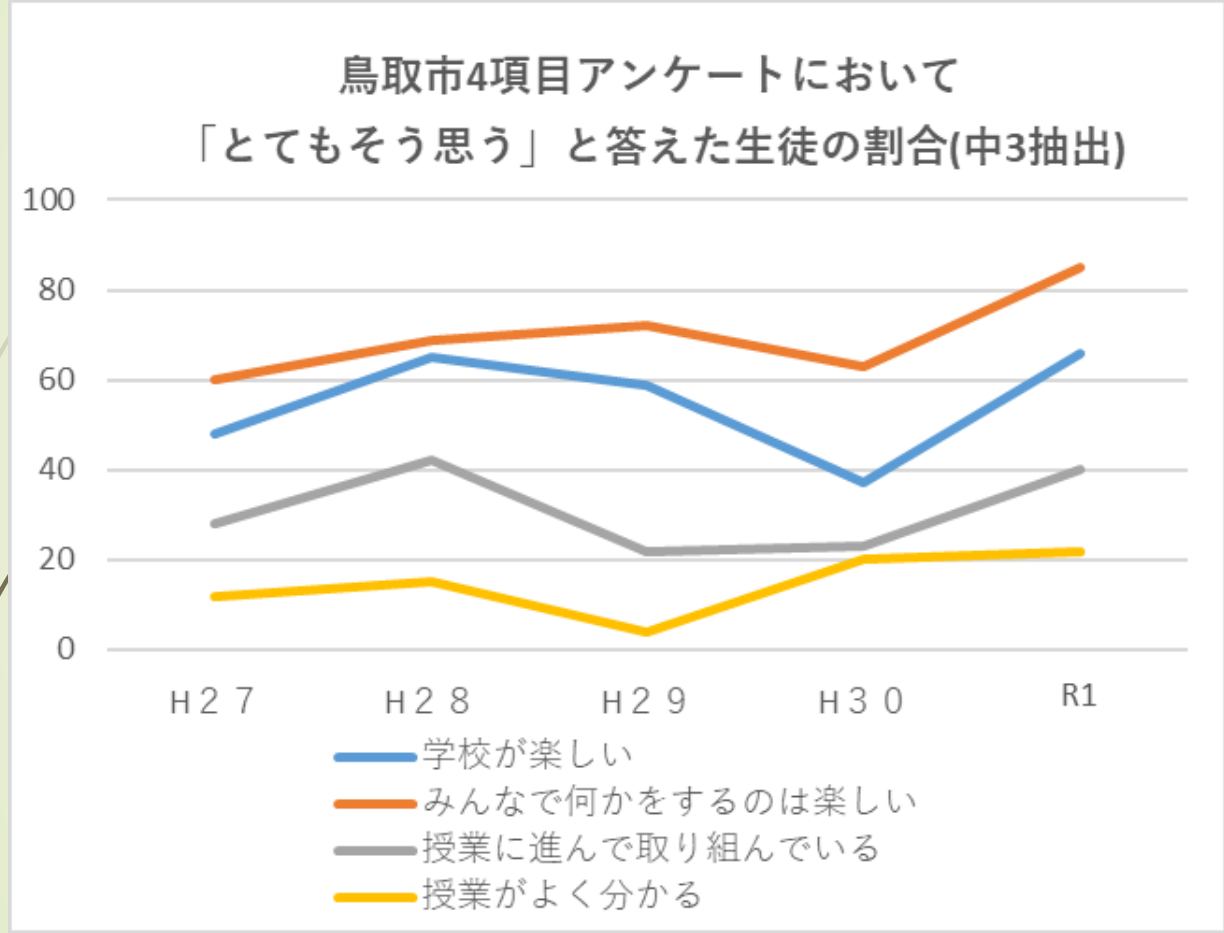
表現する力・つながる力・やりきる力

表現ワークショップから「省察」へ

柱２　地域素材を活用した特別の教科を設定

中心となる「省察」の時間

表鷲（表現ワークショップ）⇒　教科学習



表鷲科を基盤とした学力向上

本日のまとめ

キーワードは「持続可能」

地域の誇りである校舎を活用
　あえて段差を残した
　施設分離型　５・４制の特殊性
「あこがれの存在・期待される存在」

人が変わっても揺るぎない「**特別の教科**の設定」
　表現ワークショップで培った
「自分もやればできる、いいとこあるじゃん」の意識
（表鷲科では「自己効力感」と呼ぶ）

児童生徒の「自己肯定感」